

平成25年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）（精神障害分野）
青年期・成人期発達障がいの対応困難ケースへの危機介入と治療・支援に関する研究
分担研究報告書

英国における発達障害（自閉症スペクトラム障害）の対応困難事例への
治療的介入に関する研究

研究代表者 内山 登紀夫（福島大学大学院人間発達文化研究科）
研究分担者 堀江 まゆみ（白梅学園大学子ども学部）

研究要旨： 英国の ASD 患者のみを対象にした保安病院を訪問し、どのような治療が行われており、どのような支援体制が構築されているかを調査した。治療内容とスタッフトレーニングの方法について焦点をあてて検討した。その結果、治療としては認知行動療法を基本にして、本人に対して障害特性を理解してもらうための心理教育的アプローチ、SPELL アプローチ、TEACCH、応用行動分析、感覚統合療法、音楽療法などが折衷的に用いられていることがわかった。

スタッフトレーニングについては ASD の基本的理解、SPELL、構造化の基本から、大学院レベルの講義、研究方法まで幅広いメニューが準備されていた。研修の方法については院内で行うスタッフトレーニングと、外部機関が行う研修会、DVD 教材、e-ラーニング、大学院の通信教育等を組み合わせた質・量ともに充実したスタッフ教育システムが構築されており、我が国に専門家研修に参考になる点が多かった。

A . :研究目的

英国における発達障害、特に自閉症スペクトラム障害の対応困難例への治療的介入の状況とスタッフトレーニングの方法について調査し、日本での施策に役立てる。

B . 研究方法

初年度は触法自閉症スペクトラム障害の治療に特化した ST. Andrew's Specialist

Autism Services(バーミンガム)を訪問し、同病院が有する中度保安病棟、軽度保安病棟を見学し、治療的介入の内容、スタッフトレーニングの方法などについて主要なスタッフにインタビュー調査を行った。

インタビュー調査を行った同病院スタッフと資格・役職は以下の通りである。

Dr. Juli Crocombe, Clinical Director、臨床部門責任者・司法精神科医

Dr. Yvette Bates, Forensic Psychologist (司法心理学者)

Bryan Craig, Lecturer Practitioner (研修担当責任者)

Jackie O'Connell, 作業療法士

Carol Reffin & Belinda Brown, 言語聴覚士

Victoria Vallentine, 臨床心理学者

John Taylor & Fiona Box 病棟責任者 (看護師)

St. Andrew's の概要

St. Andrew's は英国最大のメンタルヘルス支援慈善団体 (Charity) であり、イギリスの 4 か所 (ノーザンプトン、エセックス、バーミンガム、ノッティンガムシャー) にセンターがあり 175 年の歴史をもつ。現在、英国においてメンタルヘルス上の問題を持つ人たち、知的障害、自閉症スペクトラム障害、外傷性精神障害を対象とする専門施設を運営している。

臨床部門としてはメンタルヘルス (一般的な精神疾患を対象)、ASD, LD (Learning Disability, 知的障害)、脳外傷、境界性パーソナリティ、進行性神経疾患、ハンチントン舞踏病、認知症に特化した病棟と PICU を運営している。なお ASD に特化した病棟は 7 病棟ある。

専門家教育にも力をいれており NHS 以外の病院としては英国最大の医学教育機関であり医学実習生、精神科医、関連医療従事者などのための教育研究病院として機能している。入院患者は 4 か所の病院を合計すると青年・成人 (男女) 合わせて 1000 人を超える。

イギリス有数の臨床専門医を含む 4000 人ものスタッフを擁する。

研究についても力をいれており、King's College London など複数の大学と連携している。現在、メンタルヘルスにおける標準化リスクアセスメントに関する世界最大規模の研究を実施中である。

St. Andrew's はメンタルヘルス関係者から高く評価されており、2011 年には Health Investor 誌から Third Sector Provider of the Year 受賞し、2012 年 Laing & Buisson から Mental Health Provider of the Year 受賞した。

インタビューを行った Dr. Juli Crocombe は St Andrew's のバーミンガムの自閉症スペクトラム (ASD) サービスのディレクターであり、同時に 4 施設全体の ASD のケアパスウェイ (クリニカルパス) の臨床部長 (Clinical Director) で、ASD 全体のガバナンスの責任者でもある。

St Andrew's は各領域のケアパスウェイの責任者と勤務場所は次のとおり (責任者名省略)。

・精神疾患ケアパスウェイ臨床部長 ノーザンプトン

・人格障害ケアパスウェイ臨床部長 エセックス

・知的障害ケアパスウェイ臨床部長 ノーザンプトン

・神経精神医学・脳障害ケアパスウェイ臨床部長 ノーザンプトン新任

・ASD ケアパスウェイ臨床部長 バーミンガム

このように、各領域において臨床の責任者が指名されており、日本よりも専門分化がされているようである。知的障害部門は英国では伝統的に独立した部門であるが、ASD が独立した部門として、ASD に特化したサービスが提供されていることが注目される。

サービス対象者

St Andrew's サービス利用者は、思春期・成人(男女)であるが、ASD サービスは男性のみを対象としている。なお児童は対象としていない。ほとんどが英国精神保健法の下での隔離による治療を行っている。Deprivation of Liberty Safeguards (DOLS 自由の制限に関するセーフガード)が科されている人もいる。DOLS は、精神保健法と Mental Capacity Act (意思決定能力法)を連結したものである。入院については Criminal order による入院がほとんどである。法的根拠としては英国精神保健法第 37 条(強制入院命令)あるいは第 38 条の暫定強制入院命令が大多数をしめるが精神保健法第 3 条(治療収容)の人もいる。刑務所からのトランスファーすなわち第 47 条 & 第 48 条による入院もあり、この場合、99.9% が制限命令(restriction order)付きであり、ほとんどが保安病棟で処遇されている。

ASD 病棟

ASD に特化した病棟はバーミンガムでは軽度保安病棟が 20 床あり、アセスメント & 治療 8 床、リハビリテーション/回復 12 床にわけている。これとは別に中度保安ユニ

ット(15 床)がある。

ノッティンガムシャーの病棟は主に知的障害と自閉症を対象としており中度保安ユニット(16 床)、軽度保安アセスメント & 治療(15 床)、軽度保安 リハビリテーション/回復(18 床)である。

ASD 病棟における治療内容

多職種が連携して ASD の患者にサービスを提供することを重視している。職種は医師、看護師、ケースワーカーに加えて、司法心理学者(Forensic Psychologist)、臨床心理学者(Clinical Psychologist)、作業療法士、言語聴覚士、教師(教員資格をもち、成人の教育を担当)がスタッフとして予算化されている。ASD の人に関しては、成人であっても教育が重要であるので、教師も欠かせない存在である。入院患者は週に平均 35 時間の様々な活動に参加する。時間的には作業療法、看護師による指導が 40%、臨床心理学者が単応するのが 10%、多職種チームによる活動が 10%、言語聴覚士が 3%となっている。

継続的な質管理

臨床部長は、St.Andrew 's の ASD の臨床諮問委員会(Clinical Advisory Group)の委員長を兼ねる。ASD のケアパスウェイに基づき、一貫した質のサービスを担保するために継続的にスーパーバイズを行っている。ケアパスウェイ開発グループ(Care Pathway Development Group)があり、紹介患者のインテークから退院まで、エビデンスに基づいた治療的対応をすることが求められる。サー

ビスをよりアウトカムに焦点を合わせた（outcome focused）ものに改善するための準備をしている。St.Andrew's 管轄の全施設に対して、同じ基準のサービスを提供することを目指している。

均一なケアスタンダード

St Andrew's では、全病棟に対してのケアスタンダードがあり、さらに ASD に特化したケアスタンダード、すなわち、NICE の自閉症ガイドライン（用語解説参照）、自閉症アクレディテーション（用語解説参照）に沿ったものに改善するように継続した努力を行っている。

エビデンスを基礎としたサービス提供

自閉症サービス全体をエビデンスを基礎としたものにする。そのためには既存のエビデンスだけでなく、St Andrew's 自身のエビデンスを生むための研究を強化する予定である。St Andrew's には、研究のための対象者が十分にいるので、世界の触法自閉症者の支援に役立つ研究を遂行することがミッションの一つである。

将来の展望

St Andrew's では ASD の性に対するサービスが現在ないために、将来は触法 ASD 女性のためのサービスを提供したいと考えている。現在、ASD の女性は知的障害の病棟などで処遇されており、ASD に特化した支援体制が組まれていないことが問題である。問題点を検討するために CQC（Care Quality

Commission ケアの質委員会）による、知的障害と自閉症の人に対する全体調査が行われた。収集したデータは、IT 担当者が解析し、ASD の女性が知的障害病棟と ASD に特化した病棟のどちらが適しているかを判断するための基礎的データにする。

ASD 犯罪の予防

性加害、放火、サイバー犯罪。ASD の患者で、インターネット犯罪に関わる ASD の人が増えている。St Andrew's には触法 IT 部門（Forensic IT Department）があり、サイバー犯罪の予防について研究調査を行う予定である。

リスクアセスメント

リスクアセスメントのツールの開発が必要である。HCR-20（攻撃性の評価）は入院患者全員を対象に行う。これは優れたツールであるが、ASD の特性を評価するには不十分な点があり、改変が必要である。現在ノッティングハムの臨床心理学者が、ASD の患者に適用するために改変すべき点について分析を行っている。性犯罪については The Stalking Risk Profile (SRP)などを使用するが、やはり ASD に適合するように改変が必要である。インターネット犯罪に特化したリスクアセスメントの必要が増している。HCR-20 は個人の犯罪（personal crime）のリスクアセスメントツールであり、インターネット犯罪と性質が異なり、新たなアセスメントツールが必要である。

アウトカム測定 (Outcome measures)

アウトカムをどのような視点で評価するかについては十分な検討が成されていないし専門家の間でもコンセンサスがなない。アウトカムの評価ツールは少ないが、St.Andrew's では Health of the Nation Outcome Scale(HoNOS) (用語解説参照) を使用している。知的障害版はあるが、ASD 版はないために開発する必要がある。

スタッフトレーニング

スタッフトレーニングの基本は ASD の障害特性の理解を重視している。まず中核にあるのは Specific Assessment & Approaches (NICE CG142), Spell Framework(用語解説参照), Culture of Autism (Mesibov) (自閉症の認知特性を尊重することを強調する立場、TEACCH 部の責任者であった Mesibov の提言) である。

必要な知識として必ず取り上げるのは以下の7つのガイダンスである。このガイドラインは他機関によって作成されたものであるが、St. Andrew's の専門家チームによって ASD を支援する上で必須で適切なものを選択した。

1 . 自閉症法 2009、Adult Autism Strategy 2010

成人自閉症支援法、成人の支援手段についての国のガイダンス

2. National Autistic Society Autism Accreditation Standard

3. Research Autism Guidance on intervention (Research Autism という英国

の研究団体が出版しているガイダンス)

4. Initiatives endorsed by the National Autistic Society (Socialeyes, UCLA PEERS)

5. DSM-5

特に DSM-5 において DSM-IV にはなかった感覚問題が採用されたことについての説明。ASD における

6. NICE Clinical Guideline 142 (心理社会的介入について強調している)

7. NICE Quality Standard Q551 が使われる。(ASD に関して生活の質を改善するために何を優先すべきかが記載されている)

独自のスタッフトレーニングガイダンス

St Andrews 独自で ASD の専門家から構成する Clinical Advisory Group を構成し、7 段階からなるスタッフトレーニングのためのガイダンスを開発した。以下に、各段階について説明する。

Phase 1:

イントロダクションであり。ASD の理解、コミュニケーション、知的障害、サービスユーザーの視点の講義が、それぞれ 1 時間半行われる。そして 5 日間の「攻撃性と暴力の予防とマネージメント (Prevention & Management of Aggression & Violence (PMAV)) が集中的に行われる。

Phase 2:

ASD の理解がテーマである。
NAS / Tizard Centre pack のモジュール 2

を行う。NAS / Tizard Centre pack とは Kent 大学にある、知的障害の人のコミュニティケアの研究機関である Tizard Centre と NAS (National Autistic Society:全英自閉症協会) が開発した研修テキスト ”Understanding and Supporting Children and Adults on the Autism Spectrum”の Module 2 (自閉症理解がテーマ) を用いて1日かけてワークショップを行う。

Phase 3: は ASD の人の支援について NAS の SPELL フレームワーク(用語解説参照)について、やはり一日のワークショップを行う。

Phase 1-3 では E-ラーニングにより、英国心理学会が制作したプログラムを用いて成人自閉症についての理解、成人自閉症の支援方法、成人自閉症との協働の方法について学ぶ。また”Geneva Centre for Autism online modules2 と”NAS Ask Autism modules”による E-ラーニングによる研修も行われる。”Geneva Centre for Autism”はカナダのトロントを拠点に活動している自閉症支援団体で、多くのオンラインセミナーや研修会を開催している。

“NAS Ask Autism modules”は NAS が運営している E-ラーニングのプログラムである。70 人以上の ASD 当事者によって開発されたことが特徴であり、自閉症の一般的理解、自閉症とコミュニケーション、自閉症と感覚の問題、自閉症とストレス・不安、家族の支援

の5つのモジュールからなる。

Phase 4 は Core Practice と名付けられ、コミュニケーション、社会的理解、行動の理解、感覚の問題、パーソンセンタードアプローチがテーマである。

Phase 5 は ASD に特化したアセスメントと支援方法についての研修を行う。

アセスメントについては、ADOS-2、ADI-R、TTAP (TEACCH Transition Assessment Profile)の研修を行う。

支援方法については TEACCH 3 day & 5 day トレーニング、感覚統合療法の

“Sensory Integration Network modules 1-4”、“Intensive Interaction“(重度知的障害を伴う自閉症の人に前言語的なコミュニケーションについて教育する介入方法)、Being Me (NAS が開発した、診断直後の ASD の人が持つ疑問に答えることを目的とした DVD 教材。ASD の当事者が多数出演する)を用いた研修を行う。ただし、“Being Me”は新たに開発された “Autism Spectrum Self-Awareness Program: ASSAP”)に改変される予定である。さらに”Socialeyes”という ASD の人のソーシャルスキルの改善を意図した二日間のプログラム、“UCLA PEERS® 3 day PEERS”という対人関係スキルの向上を意図して UCLA の Laugeson によって開発された青年期の ASD を対象にした3日間の研修パッケージ、“NAS Autism Trainer Development”(NAS が開発した自閉症支援スタッフを教育する指導者クラスの人を対

象にした1日のプログラム)への参加が推奨される。

Phase 6: 卒後教育

シェフィールドハルマン教育プログラム(シェフィールドハルマン大学の自閉症とアスペルガー症候群のコース、一定の要件を満たせば学位が得られる)、バーミンガム大学通信教育課程(自閉症成人)、ケント大学、Tizard センターの自閉症研究の通信教育課程など大学院レベルの通信教育への参加が推奨される。

Phase 7: 研究開発

このステージでは研究と研究発表が推奨される。自閉症に関する書籍の一部を分担執筆したり、学会などのシンポジウムで発表したり自閉症の人を支援するためのプログラム開発などを行う。

これらの Phase1 から7までの研修プログラムが準備されており、スタッフはそれぞれの職種やスキルに応じて自分にあったプログラムを段階的に習得していく。

他の関連したトレーニングとしては

1. HCR-20 3 day
 2. RAID 3 day
 3. Group work facilitator 3day
- の3つのトレーニングがある。

HCR-20 は、司法精神科における患者の攻撃性の包括的評価を目的として、カナダの研究者・臨床家らによって開発された評価スケ

ール。ヒストリカル(10項目)、クリニカル(5項目)、リスク・マネジメント(5項目)の3つのスケールから構成されており、問題行動に關与する要因を巧みな組み合わせで評価することができる。各分担研究者の安藤らにより翻訳されている。

RAID とは RAIDing (Reinforce Appropriate, Implode Disruptive)の略で、いわゆる問題行動に対して、徹底的に肯定的にアプローチすることによる改善を意図したプログラムである。適切な行動を増加させることにより問題行動を改善するとともに、問題行動が生じた時の対応についても研修する。英国では既に12000人以上の専門スタッフが参加しており、特に保安病棟のスタッフの参加が多い。

Group work facilitator 3 day は ASD の人のグループを対象に行う認知行動療法をどのようにリードするかについての3日間の研修コースである。

上記の研修は看護師やOTなどすべての臨床スタッフを対象にした研修である。

St. Andrew's 保安病棟における臨床心理学的介入方法

以下に主に臨床心理スタッフが行う介入方法について記載する。触法 ASD の人が持つ問題は ASD 特性(対人交流、社会的コミュニケーション、社会的イマジネーション、感覚情報処理の問題)に加えて、触法行為(暴力、性的問題、放火、ハラメントなど)があるが、多くの人が同時に不安や抑うつ、ADHD、パーソナリティ障害、精神疾患、

物質依存などの精神科的問題を併せ持つ。保安病棟でケアする ASD の人には“ピュアな ASD”の人はほとんどいない。従って心理学的介入についても、さまざまな配慮が必要になる。

心理学的介入はグループ治療と個人治療に大別される。また支援方法は特定の臨床心理学的介入（認知行動療法など）と病棟全般で行う介入（前述の RAID, SPELL など）に区別できる。

グループベースで行う介入には“Being Me”（前述），“Adapted DBT”，“Brain Training”，リラクセーション、“性加害者プログラム”などがある。

個人ベースの介入としてはバイオフィードバック、性教育、怒りのマネージメント、認知行動療法などが準備されている。

触法 ASD 者には既存の介入方法をそのまま用いることが難しいために既存の方法を改変することと、新たに支援方法を開発することの両方を組み合わせて適用することが多い。

既存の方法を改変する例としては Adapted DBT がある。DBT(Dialectical Behaviour Therapy、弁証法的行動療法)はもともとは境界例の問題行動を主な対象として開発された認知行動療法の一つであるが、ASD 向けに写真や文章を使用したテキストやカードを作成するなどの改変を行った。

新たに開発した支援方法としては Brain Training がある。この基本は認知行動療法であるが、パワーポイントなどの視覚教材を多用する、コミックストリップカンパセーシ

ョンを用いる、思考-感情-行動のリンクを絵を用いて理解することを促すなどの方法をパッケージにした支援方法である。

性犯罪など対人関係に問題をもつ患者には“Great Mates Great Dates”（素晴らしい友人（異性）素晴らしいデート）という支援パッケージを用いることがある。これは「友人とはなにか」「信頼」「他者に魅力を感じる時」「デートの方法」「同意することの重要性と法律」「安全なセックス、避妊、性病の予防」「どのように異性との関係を維持するか」「異性との別離への対処」などをテーマに具体的な知識や行動について教育する方法である。

C. 考察

ASD に特化した英国の保安病棟の概要、スタッフトレーニングの内容と方法、心理学的介入方法について視察結果を報告した。

スタッフトレーニングについては触法の問題以前に自閉症スペクトラムの特性に関する研修が質・量ともに充実していることが印象的であった。まず ASD の特性を理解することから出発するという理念が明確にあり、その後に触法問題に特化したプログラムも準備されている。支援理念の基本が英国の機関らしく SPELL であり、共通部分が多い TEACCH の研修もパッケージされていた。

また病院内で行う研修が充実しているのに加えて、ネット講座やDVDなどの動画教材、大学院の通信教育課程 多くがネットによる教育を併用しているとの連携がなされていることも日本にはない特徴であろう。

介入方法についても、さまざまな方法を折衷的に実施していた。認知行動療法が基本であるが、弁証法的行動療法など日本では境界例が対象と思われていた支援方法が採用されていたことは予想外でもあった。ASD 特性に配慮した改変がなされているのはいうまでもない。

病棟を見学した印象では、各患者が十分なスペースのある空間でゆったりとした生活を営んでいること、多くの活動が準備されていること、person-centred の各個人の特性や嗜好に配慮した看護や支援がなされていた。

今回の視察はバーミンガム病院のみであったが、来年度は他地区の保安病院・病棟の視察を行い、今回は十分な視察ができなかった、リスクアセスメントの方法、ASD の看護のあり方や退院後のフォローアップの方法、地域との連携のあり方について検討を行う予定である。

用語解説

以下に本報告で触れた重要な用語・概念について解説する。

Adult Autism Strategy

2009年に成立した Autism Act が規定する自閉症支援を具体化するための方略自閉症の理解度を高め、雇用を促進する方法などが記載されている。

<http://www.autism.org.uk/working-with/autism-strategy/the-autism-strategy-an-overview/adult-autism-strategy.aspx>

Autism Accreditation (自閉症アクレディテーション)

英国自閉症協会が行っている支援機関のクオリティコントロールのシステム。

一定の水準に達していると判断されると認定(accreditate)される。

<http://www.autism.org.uk/our-services/autism-accreditation.aspx>

Culture of Autism

これについては『本当の TEACCH 自分が自分であるために』(学習研究社、2006年)に詳しく解説した。

HoNOS (Health of the Nation Outcome Scales)

Royal College of Psychiatrists' Research Unit (CRU)が開発した重度精神障害者の社会的機能を測定するためのツール。

NAS Ask Autism modules

本文内で説明。サイトは下記

<http://www.autism.org.uk/our-services/training-and-consultancy/ask-autism/online-modules.asp>

NICE clinical guideline 142

国立医療技術評価機構 (National Institute for Health and Clinical Excellence, NICE) が発行している臨床ガイドライン。自閉症スペクトラムの成人のガイドラインとして下記が公表されている。

Autism: recognition, referral, diagnosis and management of adults on the autism spectrum Issued: June 2012
guidance.nice.org.uk/cg142http://www.nice.org.uk/nicemedia/live/13774/59685/59685.pdf

なお、ここでいう AUTISM はアスペルガー症候群なども含む広い概念である。

NICE Quality Standard Q551:

<http://publications.nice.org.uk/autism-qs51>

RAID: 本文で説明。サイトは
<http://www.raid.co.uk/>

Socialeyes:

ASD 当事者と専門家が共同で開発したプログラム。ASD の人に「不適切な行動をなくす」とか「定型発達の人々の”正常の”行動を模倣する」ことを求めるのではなく、他者と関わるための ASD の人に適合した方略をを学習することを目的とする。DVD と CD-ROM によるパッケージがあり、その内容は“ソーシャルシナリオクリップ”、活用法のマニュアル、ワークシートなどから構成される。

<http://www.autism.org.uk/our-services/training-and-consultancy/specialist-training/socialeyes-facilitator-training.aspx>

SPELL

英国自閉症協会 (National Autistic Society)には SPELL という共通の理念があ

る。これは Structure (構造) Positive (肯定的) Empathy (共感) Low Arousal (穏やか) Links (繋がり) の五つであり NAS の支援のフレームワークといえる。NAS は 7 つの自閉症学校をはじめとして幼児から成人までを対象にした多くの支援機関を運営しているが NAS の運営する支援機関すべてこの SPELL という共通の理念に基づいて運営されている。

TEACCH

『本当の TEACCH 自分が自分であるために』(学習研究社、2006 年)に詳しく解説した。

文献

Beadle-Brown, J and Mills R: Understanding and Supporting Children and Adults on the Autism Spectrum. Pavilion Publishing and Media Publication: 2010

C.D.WeBster 他著 吉川和男監訳岡田幸之、安藤久美子、菊池安希子 訳

HCR-20 第 2 版 暴力のリスク・アセスメント、星和書店 2007